

お忙しくても、約 2 分間で読めます

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

アメリカ一極支配から多極化世界へ 中西 輝政 (京都大学教授)

1. アメリカは、ついに歴史に追いつかれてしまった。9月7日、政府系住宅金融公社「ファニーメイ」と「フレディマック」に対して、アメリカ政府は史上最大の企業救済に乗り出し、9月15日は、全世界に「リーマン・ブラザーズ破綻」のニュースと、全米第3位の投資銀行メリルリンチがバンク・オブ・アメリカに救済合併されることになった。いわゆる「サブプライムローン問題」に端を発したアメリカの金融危機は、ついに世界恐慌に発展する様相を見せはじめた。グリーンSPAN前FRB(連邦準備制度理事会)議長は、この9月の危機を経て、ついに「百年に1度の金融システムの危機」と述べるに至った。
2. 多極化への流れは、いまや否応なく事実として表面化している。端的に言えば、日本の長期的な選択は二つしかないのである。多極の中で、日本も「一極として立つ」という目標を自らに課すか、あるいは「小さくてもキラリと光る属国」となるかである。そもそも日本は本当の意味で「経済大国」であったことはなかった。経済大国とは、自分で資源を確保でき、自分で金融政策を決め、自分で高度技術を開発して守り抜くことができる国、場合によっては、その技術で世界のスタンダードを決めていける国である。日本にその力はなく、戦後一度として、それをめざしたこともなかった。せいぜい「産業設備大国」であり、「経済大国」というのはおこがましかったのである。
3. 多極化する世界というものは、すべてにおいて「時間の流れ」が速く、タイミングが日本という国の命運を決する世界なのである。このことだけはいま、しっかり心に刻むべきであろう。

(参考:「voice」2008年11月号)

## 経営者のための経済学

「アメリカ後」の世界

ファリード・ザカリア (ニューズウィーク誌論説委員)

1. 米国が世界の経済、政治、軍事のすべてにおいて圧倒的リーダーシップを取るという時代は終わった。世界一高いビルも、世界一裕福な人も、世界一のカジノも、既に米国にはない。だが、それは絶望的な衰退を意味するものではない。「新勢力の出現」が米国一極集中の構図を書き換えるという意味だ。
2. 「アンチ・アメリカ」を意味するものでもない。世界はこれまでよりもテロが減り、平和になるだろう。成長の機会是世界中に増えていく。新興国が急成長を遂げ、世界経済は今後25年で2倍に拡大する。2040年までに中国、インド、ブラジル、ロシア、メキシコの5ヶ国が「欧米諸国と日本で構成される先進7ヶ国(G7)よりも大きな経済力を持つことになる。

(参考:「日経ビジネス」:2008年8月4日・11日号)

## 人事・労務について

聞く力を養う

池上 彰 (元NHK記者)

1. 会話の心構え
  - (1) 聞く力 (話を聞く姿勢を示す)
    - ① 目線の高さを合わせる
    - ② 謙虚に教をを請うという意識を持つ
    - ③ 質問は自問して論点を明確に
  - (2) 伝える力 (相手への想像力を働かせる)
    - ① 伝えること、誰に伝えるかを明確に
    - ② 伝える何倍もの情報を集め取捨選択
2. 発信のために土台となる情報整理
  - ① 読書が基本、通勤電車や空き時間を使う
  - ② 興味を持った新聞記事を保存
  - ③ アイデアは他人に話すことで考えがまとまる

(参考:「週刊東洋経済」2008年8月16日・23日号)

## 古典に学ぶ

祖先をおもうにまさることなし

「後図は宜しく本先に在るべし、孫謀は念祖に如くは莫し」

(訳)後日 謀 は祖先を大事にすることにあり、子孫のためにする謀は祖先をおも

(参考:佐藤一斎「言志四録」):PHP文庫